



9月は「がん征圧月間」です がん検診を受けましょう



がんは日本人の死因として最も多い病気で、およそ4人に1人ががんと原因として亡くなっています。

また、日本人の2人に1人が生涯で一度はがんにかかるといわれるほど、がんは身近な病気です。

県内では、年間約1万8千人の方ががんにかかり(全国がん登録令和元年集計)、約7千人の方ががんにより亡くなっています(令和3年人口動態統計)。

毎年9月は、公益財団法人日本対がん協会が定めた「がん征圧月間」です。県は、がん征圧月間にあわせて、がんに関する正しい知識の普及啓発や、がん検診の受診を促進するための活動をしています。

早期発見のために

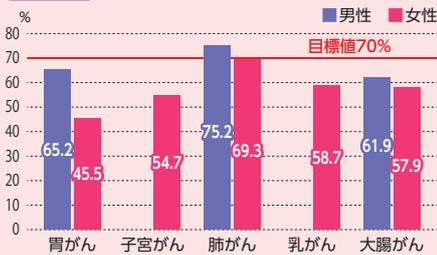
がんによる死亡を減らすためには、早期発見・早期治療が有効です(グラフ1)。

しかし、早期のがんは自覚症状がないことが多いので、定期的ながん検診の受診が必要です。

県は、受診率70%を目標にしています。令和4年の調査では、一部の検診を除いて目標に達していないのが現状です(グラフ2)。20〜30歳代に増えている子宮頸がんは、その年代の受診率が特に

低くなっています。がん検診は職場や市町村で実施していますので、ぜひ受診しましょう。

グラフ2 宮城県のがん検診受診率



出典:令和4年県民健康・栄養調査

※算定年齢は40歳から69歳(子宮がんは20歳から69歳)

グラフ1 がんを早期発見できた場合の5年生存率(※)



出典:院内がん登録 2014-2015 5年生存率集計

※平成26年度中にステージIのがんと診断された方の5年生存率(がんのみを死因とする場合)

※肺がんは非小細胞肺がんを集計

心配事は相談を

「検診を受けることが心配」、「いざ検診を受けたら、がんと診断されたら」など、がんに対する心配や困り事があるときは、お近くのがん相談支援センターにご相談ください。

がん相談支援センターは、左記のがん診療連携拠点病院などに設けられています。その病院に通院してなくても相談ができます。

がん相談支援センター設置病院

- 宮城県立がんセンター
- 東北大学病院
- 東北労災病院
- 仙台医療センター
- 大崎市民病院
- 石巻赤十字病院
- 東北医科薬科大学病院
- みやぎ県南中核病院

がんとの共生のために

また、総合的な相談窓口として「宮城県がん総合支援センター」(下記)もありますので、お気軽にご相談ください。

がんと診断された方の約3人に1人が、20〜64歳の働く世代です。

通院による治療が増え、がんと診断されても、働きながら治療ができるようになってきました。がん相談支援センターおよび宮城県がん総合支援センターでは、仕事と治療の両立支援も行っていますので、ぜひご相談ください。

また、がんと診断された方の周囲の理

解やサポートも重要です。がんに関する正しい知識を持ち、がんになっても自分らしく生きられる社会をつくっていきましょう。

がん講演会のお知らせ

がん征圧月間にあわせ、県と仙台市、宮城県対がん協会は、がん講演会を実施します。入場は無料ですので、ぜひご来場ください。

- 9月27日(水) 午後1時30分〜2時30分 ※開場は午後1時
- 仙台市福祉プラザふれあいホール(仙台市青葉区)
- 200名(先着順)

【内容】生活習慣とがん検診でがん死亡を減らそう
【講師】寶澤 篤先生(東北大学 公衆衛生学分野 教授)
※パネル展も同時に開催します。



宮城県がん総合支援センター

※(公財)宮城県対がん協会内

☎022(263)1560

午前9時〜午後4時(祝日・休日を除く)

✉zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp



宮城県対がん協会イメージキャラクター